

AUTOMOTIVE SEAT UNIT

Patent number: JP52062560
Publication date: 1977-05-24
Inventor: ITOU KIYOSHI
Applicant: ITO KIYOSHI
Classification:
- **International:** **A47C7/72; A47C7/72;** (IPC1-7): A47C7/72
- **european:**
Application number: JP19750137918 19751117
Priority number(s): JP19750137918 19751117

Report a data error here

Abstract not available for JP52062560

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide



(4,000円)

特 許 願

昭和50年11月17日

特許庁長官 斎藤 英 雄 殿

1. 発明の名称

自動車用等座席装置

2. 発明者

特許出願人と同じ

3. 特許出願人

住所 神奈川県川崎市多摩区堀65番地

氏名 伊 藤 清 志

4. 代理人

住所 東京都豊島区巣鴨1丁目3番23号

弁護士 (4391)

氏名 松 田 商

5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書 1 通

(2) 図 面 1 通

(3) 願書の副本 1 通



明 細 書

1. 発明の名称 自動車用等座席装置

2. 特許請求の範囲

本文に詳記するように自動車等に於ける座席の芯体を被覆体を以て包囲し、被覆体に、ないし、その所要箇所に多数の空気送出孔を設ける等気体排出部を設け、被覆体内部に、殊に、被覆体と芯体間に、多数の空気孔を透設した気体排出管を設け、上記座席に、ないし、その一側部に収納面を設備してその内部と気体排出管内部とを連通させ、収納面内に送風機を装備してその電動機をバッテリー、その他勢力源に電気的に接続し、あるいは、³ それ等送風機と電動機間を動力伝達手段を以て連結し、被覆体と芯体間に送入された気体は上記気体排出部のみから排出し、あるいは、主としてこれから排出する構成にしたことを特徴とする自動車用等座席装置。

3. 発明の詳細な説明

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 52 - 62560

④ 公開日 昭 52. (1977) 5.24

② 特願昭 50 - 137918

② 出願日 昭 50. (1975) 11.17

審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

7264 26
6705 26

⑤ 日本分類

126 B010
126 B43

⑤ Int.Cl²

A47C 7/72

識別
記号

本発明は主として自動車等の座席等に於て、殊に、夏季に於ける運転者の¹座席に於て運転者の⁹字加入背部、大腿部等から発した汗が座席に滲透して座席を着しく湿潤させ、長距離運転等に際し、自動車が冷涼地帯に進入した如き場合、その湿潤箇所が急に冷却して身体に甚しく気持ちの悪さを感じさせるのみならず、それによつて、風邪に罹患するが如き弊が生ずるというを得るものがあるが、本発明は必要に応じ、座席内部から外部へ送風をなして上記の弊が発生することを防止し得る自動車等座席装置を得ることを目的とする。

本発明は自動車等に於ける座席の芯体を被覆体を以て包囲し、被覆体に、ないし、その所要箇所に多数の空気送出孔を設ける等気体排出部を設け、被覆体内部に、殊に、被覆体と芯体間に、多数の空気孔を透設した気体排出管を設け、上記座席に、ないし、その一側部に収納面を設備してその内部と気体排出管内部とを連通させ、収納面内に送風機を装備

してその電動機をバッテリー、その他勢力源に電氣的に接続し、あるいは、それ等送風機と電動機間を機械的動力伝達手段を以て連結し、被覆体と芯体間に送入された気体は上記気体排出部のみから排出し、あるいは、主としてこれから排出する構成にしたことを特徴とする自動車用等座席装置であつて、その実施の一例を説明すれば下記の通りである。

(1)は座席の背板に於ける芯体、(2)はその芯体の表面を包囲した被覆体で、背板使用者(自動車に於ては運転者)の背が当接する部分を切除し、その部へ強靱な絲条を以て形成した粗目の帆布、あるいは、綿布を取付け、若しくは、強靱な紐を交叉張着し、各紐間の目を大にする。図はこれを示したものであつて(8)は上記切除部分、(3a)は紐、(3b)は各紐(3a)間の粗大な目で、即ち、空気送出孔を形成する。(8)、(3a)、(3b)を以て気体排出部を構成する。(4)は座席の敷板で、座席の背板に準じて構成し、座席の背板に於ける気体排出部と同一符

号を付した個所は敷板(4)の気体排出部であり、上記芯体と被覆体とがあることも勿論である。第1図に於て座席の背板と同敷板(4)とは連結したものを示し、兩者の被覆体内部は連通させる。(6)は気体排出管で、座席の背板と同敷板との連結部へ挿入する。気体排出管(5)には多数の空気孔(8)を設ける。図はこの空気孔を座席の背板上方向きと敷板(4)の内方向きとに一定間隔置きに一列に横敷したものである。(7)は収納部で、座席の側に配設し、その中に送風機(8)、及び、これに回転子を連結した電動機(9)を設備する。(10)、(10a)は電動機(9)に接続した電線、(11)はそれ等電線に係る電気回路に挿入したスイッチである。なお、この電気回路には必要に応じポリウム抵抗その他電気回路形成上の必要電気器具を挿入する。電源はバッテリーであつても、発電機であつてもよいこと勿論である。

本発明の作用を上記実施例に依拠して説明するに必要に応じスイッチ(11)を閉鎖すれば電動

機(9)は回転しこれによつて送風機(8)は回転して気体排出管(5)に送風をなし、その送風は空気孔(8)から座席の背板(1)、敷き板(4)に於ける芯体と被覆体との間に各進入し、各気体排出部(即ち、空気送出孔)から送出され、運転者の背、及び、大腿部に注がれる。スイッチ(11)を開放すれば上記作用が中止することは勿論である。

本発明は上述の通り座席の気体排出部から任意に送風を排出し得る故に自動車用等座席、殊に、運転者の座席に使用した場合、夏季等に於ても運転者の発汗によつて座席を湿潤させることなく、したがつて、その湿潤により、あるいは、その湿潤状態が冷却すること等による気持ちの悪さを運転者に与える弊害が発生することを防止し、延いては運転者の健康上にも好影響を招来する効果がある。

4 図面の簡単な説明

図は本発明実施の一例を示すものであつて、第1図は本発明自動車用等座席装置を示す側

面図、第2図は気体排出管を示す縦断面図である。図中、主要部は特許請求の範囲記載事項の相互補足関係に存する。

特許出願人 伊 藤 清 志
代理人弁理士 松 出 商

特開昭52-62560 (3)

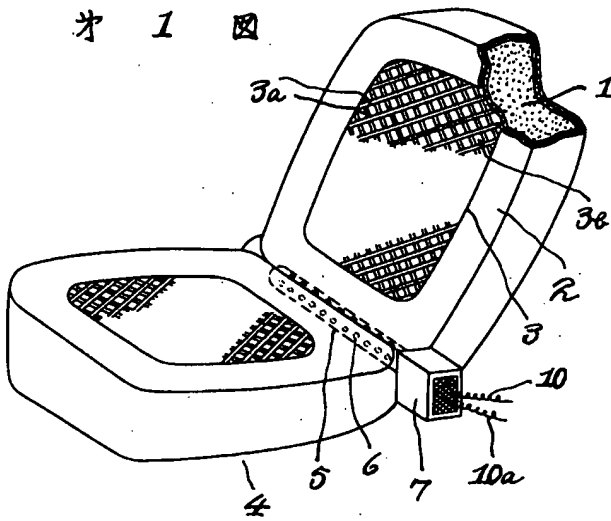
(4) 委任状

1 通

(5) 出願審査請求書

1 通

才 1 図



才 2 図

